

日生劇場開場60周年記念 主催公演ラインアップ発表

1963年にベルリン・ドイツ・オペラ『フィデリオ』のこけら落とし公演で開場して以来、様々な舞台作品を上演してきた日生劇場は、2023年に60周年を迎えます。これまでの歩みを胸に、これからもすぐれた舞台芸術を提供し、我が国の芸術文化のさらなる振興に寄与できるよう邁進していく所存です。

60周年を記念した主催公演として、NISSAY OPERA 2023では、日本初演となるケルビーニ作曲『メデア』、日生劇場では53年ぶりのヴェルディ作品となる『マクベス』、ドイツ語版舞台上演日本初演となる三島由紀夫原作『午後の曳航』（東京二期会との共催公演）、日生劇場ファミリーフェスティバル 2023では、大人気ファンタジー小説初の舞台化となる音楽劇『精霊の守り人』、画家・絵本作家ヒグチユウコ作品初の舞台化となる舞台版『せかいいちのねこ』、“日生劇場版”として新たに改訂演出・振付される谷桃子バレエ団『くるみ割り人形』という祝祭感あふれる6作品を上演いたします。

日生劇場60周年の節目を飾る豪華な記念公演にぜひご注目ください。

○60周年記念公演ラインアップ

NISSAY OPERA 2023

①NISSAY OPERA 2023『メデア』

2023年5月27日(土)、28日(日)

指揮：園田隆一郎／演出：栗山民也／管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団

②NISSAY OPERA 2023『マクベス』

2023年11月11日(土)、12日(日)

指揮：沼尻竜典／演出：栗國淳／管弦楽：読売日本交響楽団

③東京二期会オペラ劇場 NISSAY OPERA 2023提携『午後の曳航』〈共催公演〉

2023年11月23日(木祝)・24日(金)・25日(土)・26日(日)予定

指揮：アレホ・ペレス／演出：宮本亜門／管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団

日生劇場ファミリーフェスティバル 2023

①音楽劇『精霊の守り人』

2023年7月29日(土)～8月6日(日)

原作：上橋菜穂子作「精霊の守り人」(偕成社)／脚本：井上テテ／演出：一色隆司(NHKエンタープライズ)

②舞台版『せかいいちのねこ』

2023年8月19日(土)・20日(日)

原作：ヒグチユウコ作「せかいいちのねこ」(白泉社)／脚本・演出・振付：山田うん／出演：人形劇団ひとみ座、Co. 山田うん

③谷桃子バレエ団『くるみ割り人形』～日生劇場版～

2023年8月25日(金)・26日(土)・27日(日)

演出・振付：谷桃子／芸術監督 改訂演出・振付：高部尚子／出演：谷桃子バレエ団

【NISSAY OPERAとは】

オペラをより多くの方に楽しんでもらいたい!という思いから、一流の舞台をお求めやすいチケット料金でお贈りするNISSAY OPERA。日生劇場の華やかで美しい空間と極上の舞台が、皆さまを非日常の世界へと誘います。

【日生劇場ファミリーフェスティバルとは】

ご家族で本格的な舞台芸術に触れていただくことを願い1993年に日生劇場開場30周年を記念してスタートいたしました。演劇やミュージカル、バレエなど、幼稚園や小学生のお子さまにも分かりやすく、また大人の方にも楽しんでいただける、本格的な作品を上演しています。

NISSAY OPERA 2023

① オペラ『メデア』

日本初演、栗山氏の演出は50周年記念特別公演『リア』以来、10年ぶり

ギリシャ悲劇の傑作を原作としたオペラ『メデア』はケルビーニの代表作です。ロッシーニの登場以降埋もれていましたが、1952年にマリア・カラスがタイトルロールを演じたことで、オペラ史に再び咲きました。人物の情念が緻密に描かれ、演劇と音楽が見事に融合したその作品構成は、ブ람スから「劇的音楽の頂点」と絶賛されています。ケルビーニ作品の日本における上演歴はほぼ皆無で、『メデア』の上演は、これが日本初演となります。

指揮は、オペラ・シンフォニーの両分野で国際的な活動を展開する園田隆一郎、演出は、日生劇場開場50周年記念特別公演『リア』を演出して以来、栗山民也が10年ぶりに登場いたします。メデア役には岡田昌子、中村真紀を起用。2人のディーヴァとともに、王女「メデア」の壮絶な復讐劇にどう取り組むのか、ご注目ください。

本作品は日生劇場での上演後、全国各地でも上演予定。



指揮 園田隆一郎

演出 栗山民也

メデア 岡田昌子

メデア 中村真紀

【あらすじ】

舞台は古代コリントス。国王・クレオンテは、数々の冒険に出かけて偉業を打ち立てたジャゾーネに、娘のグラウチェを嫁がせることにした。しかし、ジャゾーネの前妻・メデアの存在がグラウチェの心に暗い影を落とす。ジャゾーネがクレオンテに謁見した際、メデアが現れ、かつてジャゾーネと交わした愛と、奪われた二人の子どものことを訴えるが、ジャゾーネは拒絶する。メデアは悲嘆と怒りのあまり、ジャゾーネへの復讐を誓う。

【公演概要】

日生劇場開場60周年記念 NISSAY OPERA 2023

『メデア』

(全3幕、イタリア語上演、日本語字幕付、日本初演・新制作)

作曲: ルイージ・ケルビーニ / 台本: フランソワ・ブノワ・オフマン / イタリア語訳詞: カルロ・ザンガリーニ

指揮: 園田隆一郎 / 演出: 栗山民也

管弦楽: 新日本フィルハーモニー交響楽団

出演者: メデア 岡田昌子 / 中村真紀 ほか

美術: 二村周作 / 照明: 勝柴次朗 / 衣裳: 前田文子

公演日程: 2023年5月27日(土)、28日(日)

上演時間: 約2時間半(休憩を含む)

主催: 公益財団法人ニッセイ文化振興財団[日生劇場]

協賛: 日本生命保険相互会社

② オペラ『マクベス』

ベルリン・ドイツ・オペラ公演以来53年ぶりとなるヴェルディ作品を、新制作で

〈良いは悪い、悪いは良い〉——国を救ったかつての英雄は、魔女の予言を信じ権力を求めるあまり、やがて独裁者へと変貌する。そして、その暴力が自らを破滅へと導く——。シェイクスピア四大悲劇の名作が、オペラの巨匠ヴェルディによって、圧倒的な迫力の音楽で描き出されます。

日生劇場でのヴェルディ作品は、1970年『ファルスタッフ』（ベルリン・ドイツ・オペラ）以来53年ぶりで、新制作上演いたします。指揮は、2017年から2020年にかけて、びわ湖ホールにてワーグナーの『ニーベルングの指環』全作上演を達成した泰斗・沼尻竜典。演出は、イタリア・オペラの第一人者である日生劇場芸術参与・栗國淳。日本を代表する二人のマエストロがタッグを組んで挑む、ヴェルディの傑作オペラにご期待ください。

一般公演のほか、中高生向け鑑賞教室公演を実施予定。



指揮 沼尻竜典

演出 栗國淳(日生劇場芸術参与)

【あらすじ】

スコットランドの将軍マクベスは、戦場からの凱旋の途上で魔女たちに遭遇し、「いつか王になる」という予言を受ける。野望に燃えるマクベスは、夫人と共謀して、国王ダンカンと、同じく魔女から「王の父」になると予言を受けていた戦友バンクオーを殺害する。血によってスコットランド王の地位を手に入れたマクベス。しかし、即位の宴席で、手に掛けたバンクオーの亡霊を見たマクベスの心は、しだいに恐怖によって支配されていく。かつての英雄は、独裁者として暴政を敷くようになり……。

【公演概要】

日生劇場開場60周年記念 NISSAY OPERA 2023

『マクベス』

(全4幕、原語[イタリア語]上演、日本語字幕付、新制作)

作曲: ジュゼッペ・ヴェルディ / 台本: フランチェスコ・ピアヴェ

指揮: 沼尻竜典 / 演出: 栗國淳

管弦楽: 読売日本交響楽団

美術・衣裳: アレッサンドロ・チャンマルーギ / 照明: 大島祐夫 (A.S.G.) / 振付・ステージング: 広崎うらん

公演日程: 2023年11月11日(土)、12日(日)

上演時間: 約3時間半(休憩を含む)

主催: 公益財団法人ニッセイ文化振興財団[日生劇場]

協賛: 日本生命保険相互会社

③ オペラ『午後の曳航』

三島由紀夫原作のオペラ、ドイツ語版舞台上演として日本初演

東京二期会との共催公演。戦後ドイツを代表する作曲家ハンス・ヴェルナー・ヘンツェが、敬愛する三島由紀夫の同名小説を原作にオペラ化。1990年ベルリン・ドイツ・オペラで初演されました。その後、指揮者ゲルト・アルブレヒトの企画で日本語版が2003年読売日本交響楽団により演奏会形式で初演。2006年にはその改訂版がザルツブルク音楽祭で初演されました。今回、日生劇場では、作曲家同様に三島文学を深く愛する宮本亜門による演出で、2005年改訂ドイツ語版を上演いたします。宮本亜門が三島由紀夫原作のオペラを手掛けるのは、日仏両国で絶賛を博した『金閣寺』に続き2作目となります。ドイツ語版としても、また舞台上演としてもこれが日本初演となる本作にご期待ください。



指揮 アレホ・ペレス

演出 宮本亜門

【あらすじ】

少年黒田登は、父を亡くし、夜毎、自分の部屋の秘密の穴から寢床に居る母房子の姿を覗いていた。ある日、登と房子は航海士の塚崎竜二と出会う。登は、屈強な身体 of 竜二に強く惹かれるが、房子と竜二がベッドで抱き合う様子を覗き穴から見てしまう。

やがて房子と竜二は結婚する。海を離れ、房子の経営するブティックを手伝うようになった竜二を、登は軽蔑する。ある夜、房子と竜二は、登の部屋からの覗き窓を見つける。寛容な態度をとる竜二に対して、登はさらに憎悪を募らせ、少年達とともに竜二に裁きを与えることを決意する。

【公演概要】(共催公演)

日生劇場開場60周年記念 東京二期会オペラ劇場 NISSAY OPERA 2023提携

『午後の曳航』

(全2幕、原語[ドイツ語]上演、日本語字幕付、舞台上演日本初演・新制作)

作曲: ハンス・ヴェルナー・ヘンツェ / 台本: ハンス＝ウルリヒ・トライヒェル

指揮: アレホ・ペレス / 演出: 宮本亜門

管弦楽: 新日本フィルハーモニー交響楽団 / 出演: 東京二期会

公演日程: 2023年11月23日(木祝)・24日(金)・25日(土)・26日(日)予定

主催: 公益財団法人東京二期会 共催: 公益財団法人ニッセイ文化振興財団[日生劇場]

日生劇場ファミリーフェスティバル 2023

① 音楽劇『精霊の守り人』

世界中で愛される大人気ファンタジー小説「精霊の守り人」初の舞台化

舞台となるのは、異界と人の世界が交錯する世界 ——

これまでTVドラマやアニメ、ラジオドラマなど様々な形で親しまれてきたファンタジー小説の名手・上橋菜穂子による「守り人」シリーズから1巻目の「精霊の守り人」を、NHKエンタープライズとの共同企画により、世界で初めて舞台化いたします。突然、身体に精霊の卵を産み付けられた幼いチャグム皇子と、皇子を守る凄腕の短槍使い、女用心棒・バルサの冒険を、スペクタクルあふれる音楽劇としてお届けいたします。

演出にはTVドラマ「精霊の守り人」(第3部)や大河ドラマ「麒麟がくる」の演出を手掛け、舞台作品でも活躍する一色隆司を迎え、舞台ならではのバルサとチャグムの物語を立ち上げます。本作品は日生劇場での上演後、全国各地でも上演予定。



上橋菜穂子作・二木真希子絵
「精霊の守り人」(偕成社)



演出 一色隆司 (NHKエンタープライズ)

【あらすじ】

凄腕の短槍使いである女用心棒のバルサは、ふとしたことから、新ヨゴ皇国の二ノ妃から、息子である皇子チャグムを守るように頼まれる。精霊の卵を体内に宿したことで、帝である父からも、卵を狙う異界の魔物<ラルンガ>からも命を狙われることになったチャグムを守るため、幼なじみのタンダや大呪術師トロガイに助けられながら、バルサは戦い続ける。

人の世である<サグ>と、精霊たちの世である<ナユグ>が重なる世界で、大きな流れに翻弄されながらも懸命に抗うバルサとチャグム。果たしてバルサはチャグムを守り切り、無事に卵を孵すことが出来るのか……。

【公演概要】

日生劇場開場60周年記念 日生劇場ファミリーフェスティバル 2023

音楽劇『精霊の守り人』

原作: 上橋菜穂子作「精霊の守り人」(偕成社)

脚本: 井上テテ / 演出: 一色隆司 (NHKエンタープライズ)

公演日程: 2023年7月29日(土)～8月6日(日) 12回公演予定

上演時間: 約2時間(予定・休憩を含む) / 推奨年齢: 6才～(予定)

企画・制作: 公益財団法人ニッセイ文化振興財団、NHKエンタープライズ

主催: 公益財団法人ニッセイ文化振興財団[日生劇場] 協賛: 日本生命保険相互会社

② 舞台版『せかいいちのねこ』

人気画家・絵本作家ヒグチュウコ作品の初舞台化

画家・絵本作家ヒグチュウコの絵本「せかいいちのねこ」を初舞台化いたします。本物のねこになりたいぬいぐるみのニャンコは、旅の途中で出会う動物たちから、様々な考え方や価値観があることを知ります。ニャンコの成長していく姿を通じて、本当の幸せとは何か、愛とは何かに気付かせてくれる作品です。

舞台化にあたっては国内外で活躍している山田うんを脚本・演出・振付で起用。ヒグチュウコの幻想的な独自の世界観を、人形劇団ひとみ座の人形とCo. 山田うんのダンサーたちとが融合し、静と動の絶妙な速度感で物語る舞台を創造いたします。本作品は日生劇場での上演後、全国各地でも上演予定。



ヒグチュウコ作
「せかいいちのねこ」(白泉社)



脚本・演出・振付 山田うん



【あらすじ】

ねこのぬいぐるみ「ニャンコ」は持ち主の男の子からとても愛されている。ただ、赤ちゃんの時から一緒にいた男の子はもう7歳になり、皆から男の子がぬいぐるみに飽きるのはそろそろだと言われ、ニャンコは不安を抱える。

仲間のぬいぐるみから「ねこのヒゲ」を集めて身体に入れれば本物のねこになれる、という話を聞き、ニャンコはヒゲ集めの旅に出る。男の子に永遠に愛されるために本物のねこになりたいと願ったニャンコだったが、道中で出会った様々なねこたちの優しさや愛情に触れて、本物のねこでなくとも自分は幸せだったことに気付く。

【公演概要】

日生劇場開場60周年記念 日生劇場ファミリーフェスティバル 2023

舞台版『せかいいちのねこ』

原作:ヒグチュウコ作「せかいいちのねこ」(白泉社)

脚本・演出・振付: 山田うん

出演: 人形劇団ひとみ座、Co. 山田うん

美術: 松生紘子 / 照明: 櫛田晃代 / 衣裳: 飯嶋久美子 / 音楽監督: ヲノサトル

公演日程: 2023年8月19日(土)・20日(日) 4回公演予定

上演時間: 約1時間40分(予定・休憩を含む) / 推奨年齢: 5才~(予定)

主催: 公益財団法人ニッセイ文化振興財団[日生劇場] 協賛: 日本生命保険相互会社

③ バレエ『くるみ割り人形』

“日生劇場版”として新たに改訂演出・振付、2023年3月に子役オーディション実施

チャイコフスキー三大バレエとして名高い「くるみ割り人形」を谷桃子バレエ団を迎えて上演。

長く愛されてきた同団の谷桃子演出・振付版を、芸術監督 高部尚子氏が今回の公演のために新たに“日生劇場版”として改訂演出・振付し上演いたします。指揮には井田勝大、演奏にシアターオーケストラトーキョーを迎えてのオーケストラの生演奏とともに、はじめてバレエを鑑賞する方にも分かりやすい解説付きでお届けいたします。

また、日生劇場主催のバレエ公演としては初めての子役オーディションを実施いたします。

未来のバレエダンサーたちと共に作る舞台をご期待ください。



【あらすじ】

ドイツの古い町でのお話。

あるクリスマスの夜のこと、シュタールバウム家では盛大なパーティーが開かれている。この家の娘クララは兄のフリッツと共に沢山の友人や、客人たちとパーティーを楽しんでいる。

そこへ父親の友人である人形使いのドロツセルマイヤーが、子どもたちを楽しませる為に沢山のプレゼントを持ってやってきた。クララはドロツセルマイヤーからくるみ割り人形をプレゼントとして受け取る。

楽しいパーティーが幕を閉じ、みんなが寝静まった夜。くるみ割り人形と一緒に居間のソファで眠ってしまったクララのもとに現れたのは……。すてきな夢の物語が始まる。

改訂演出・振付 高部尚子
 (谷桃子バレエ団芸術監督)

【公演概要】

日生劇場開場60周年記念 日生劇場ファミリーフェスティバル 2023

谷桃子バレエ団『くるみ割り人形』～日生劇場版～

原作：E.T.A.ホフマン

音楽：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

台本原案：マリウス・プティパ／原振付：レフ・イワノフ

演出・振付：谷桃子

芸術監督 改訂演出・振付：高部尚子

出演：谷桃子バレエ団

指揮：井田勝大／演奏：シアターオーケストラトーキョー

公演日程：2023年8月25日(金)・26日(土)・27日(日) 6回公演予定

上演時間：約2時間(予定・休憩を含む)／推奨年齢：3才～(予定)

主催：公益財団法人ニッセイ文化振興財団[日生劇場] 協賛：日本生命保険相互会社

○ 60周年記念ロゴについて



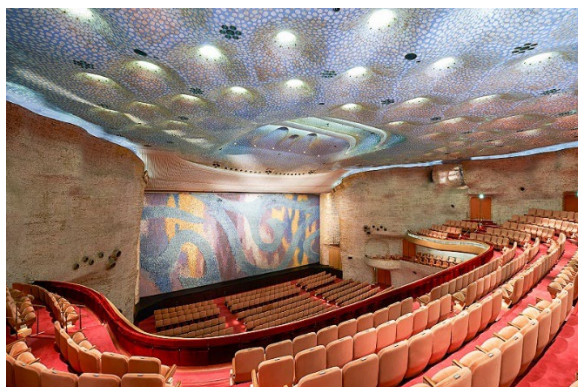
これまでご来場いただきました多くのお客様や舞台を支えていただいたスタッフ、キャストはじめ劇場関係者の皆さまへの感謝の気持ちと、これからも優れた舞台芸術を提供し続ける劇場でありたいという想いを込め、アニバーサリーロゴを作成いたしました。

当劇場が1963年の開場より60年に亘り、一段一段積み重ねてきました歴史や舞台公演に込めた想い、また、この先の未来も優れた舞台芸術の提供を通じ、わが国の芸術文化の振興に寄与していきたいという決意を、当劇場の象徴の一つであります劇場内の螺旋階段と右上がりの「60」の数字でデザインいたしました。

今後、開場60周年記念公演の各種公演パンフレットやポスター、劇場外に掲揚する劇場旗などで、広く皆さまにお知らせしたいと考えております。



日生劇場外観



日生劇場場内

本件に関するお問い合わせ

公益財団法人ニッセイ文化振興財団【日生劇場】

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-1-1 TEL: 03-3503-3111 / FAX: 03-3501-6816

日生劇場 HP: <https://www.nissaytheatre.or.jp/>

NISSAY OPERA ページ: <https://opera.nissaytheatre.or.jp/>

日生劇場ファミリーフェスティバル ページ: <https://famifes.nissaytheatre.or.jp/>